

教育講演 3「感染症」EL3 東京都の COVID-19 対応 (宿泊療養、高齢者等医療支援型施設)

成田友代

東京都保健医療局 技監

【はじめに】

令和 2 年 1 月 24 日、東京都内で初めてコロナ陽性患者の報告があり、都は同年 4 月に、最初の宿泊療養施設を開設した。COVID-19 対応において、都は、調整本部会議などの会議を活用し、救急や感染症等の専門家の先生と意見交換を行い、酸素・医療提供ステーションや高齢者等医療支援型施設など、時期に応じた効果的な感染対策の取組を行った。

【宿泊療養施設の運営】

運営実績

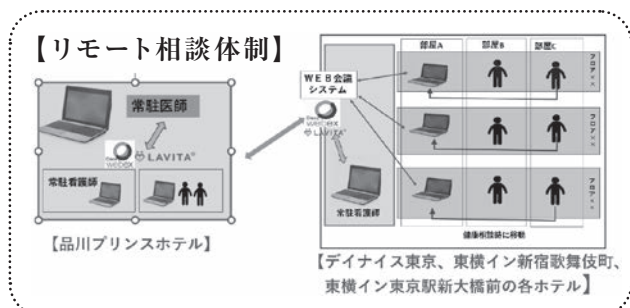
令和 2 年 4 月 7 日から令和 5 年 9 月 30 日まで

月別最大受入数：34 施設 31,958 人

入所者数累計：全施設合計 約 276,772 人

当初、宿泊療養施設は入院患者の待機施設として運営されたが、感染拡大に伴い、自宅から直接入所する体制へ移行。専門家の助言を得て健康管理マニュアルを整備し、医師・看護師による健康観察を実施。施設ではゾーニングを徹底し、安心・安全な運営体制を構築した。リモート健康管理は第 2 波（令和 2 年 7 月から 8 月）の 8 月にモデル的に実施し、令和 2 年 9 月から本格稼働を行い、医師が常駐しない施設でも WEB 会議システムを活用して対応した。

さらに、医療法人と連携し往診体制を整備。また、急変時には健康状態に応じた分類と対応フローを活用し、迅速な搬送を実現した。食事や生活支援にも配慮し、アンケートでは、入所者の約 9 割が「ホテル療養でよかった」と回答した。



【酸素・医療提供ステーションの運営】

運営実績

令和 3 年 8 月 23 日から令和 5 年 9 月 30 日まで

最大病床数：5 施設 524 床

入所者数累計：全施設合計 11,789 人

都では、デルタ株が流行した第 5 波（令和 3 年 7 月から 9 月）において、医療のひっ迫が深刻化し、特に中高年層の自宅療養中の呼吸器症状悪化が課題となった。これを受け、都では、令和 3 年 8 月に酸素医療提供ステーションを設置。軽症から中等症 I の患者を一時的に受け入れ、酸素投与や中和抗体薬による治療などの医療的ケアを 24 時間体制で実施した。

候補場所決定からゾーニング・酸素配管工事、医療資材の準備等を二週間程度の短期間で行い、病棟のような健康観察体制を構築、妊婦の受け入れも行った。

【高齢者等医療支援型施設の運営】

運営実績

令和 4 年 2 月 21 日から令和 6 年 3 月 31 日まで

最大病床数：8 施設 692 床

入所者数累計：全施設合計 11,572 人

都は、オミクロン株が流行した第 6 波（令和 4 年 1 月から 5 月）において、高齢者の入院需要増に対応するため、軽症・中等症の高齢者や障害者を対象とした高齢者等医療支援型施設を設置した。

施設では、医師・看護師による健康観察やレムデシビル等の治療薬の投与、リハビリ、栄養管理などを実施。病院との連携により急変時の搬送も可能とし、透析患者の受け入れにも対応した。

施設運営は主に医療法人に委託し、病院に近い体制を構築。医療・介護のひっ迫の緩和に貢献した。アンケートにおいて、感染防止や重症化予防の面で、有効だったと評価されている。

高齢者等医療支援型施設 (赤羽)

透析用ベッド
透析患者受入 366 人
透析実施回数：1,073 回



【まとめ】

コロナ禍では、第 5 波のデルタ株による重症化が最も厳しい時期だったが、本日の学会長である三浦先生をはじめ、関係機関の皆様の助言と協力により新たな取組に繋げることができた。

平時においては、今回のような学会や連携会議、訓練や研修等を通じて「顔の見える関係」を強化し、次のパンデミックに備えて行きたい。